

〈 絵日記の部 〉

最優秀賞

さざえどう 会津若松市立日新小学校 一年 佐藤 颯



だ い め い さざえどう

にっしん

小学校

一年

さざえどう

て	は	か	え	は	も	な	ひ	ぼ	さ
み		い	の		の	い	と	る	ざ
た	ぜ	ま	か	さ	で	ふ	が	ひ	え
い	ん	す	ん	え	す	し	あ	と	ど
で	い		の	い		ぎ	ら	と	う
す	さ	こ	ん	り	な	な	こ	お	は
	が	ん	さ	ら	か	た	と	り	
	し	ど	ま	さ	に	て	が	る	の

〈小学二・三年生の部〉
最優秀賞

だいにしたいこと

会津若松市立一箕小学校 二年 松下 奏英

わたしの家はいいもり山のちかくにあります。朝、早おきしてさんぽをしたり、ばあちゃんやいとこが来たときいっしょに行ったりするので、何回も行ったことがあります。いつもは、「かいだんが長くてつかれるな」「高いな」としか思ったことはなかったのですが、えんそくでいいもり山へ行ったとき、びやっこたいやつるがじょうの話をはじめて聞きました。つるがじょうがもえているのを見たびやっこたいの人たちが、せんそうにまけてしまったと思つて、自分で自分のことをさしてしまつた話はどうもびっくりしました。とてもかなしくなりました。そして、びやっこたいの人たちの年がまだ子どもだったことを聞いたときも、自分のいとこと同じくらいの年だったので、とてもつらい気もちになりました。でも、それだけあいつのことが大すきで、だいに思つていたんだなと思ひました。今、あいつの町を車で通ると、いろいろなところに、はたが立っていたり、ポスターがはつてあつたりするので、「何て、書いてあるの。」とお母さんに聞きました。「ぼしん百五十年だよ。」とおしえてくれました。あいつであつたせんそうがはまつて百五十年たつたということ、びやっこたいの人たちもそのときたかたつたそうです。

みんな、あいつのことがだいで、いっしょけんめいたたかつてくれたから、あいつには今もいいところがたくさんあります。わたしは、もつともつとあいつのことを知りたいと思ひました。ものをだいにしたり、だいなものをのこしていくためにはどうしたらいいかを考えたりしながら、むかしの人たちがだいにしてきたあいつのいいところを、わたしももつていきたいと思ひます。

〈小学四・五・六年生の部〉

最優秀賞

小松彼岸獅子

会津若松市立川南小学校 五年 山口 菜那子

私の学校には、小松彼岸獅子という伝統的な文化があります。小松彼岸獅子の練習は、小松地区に住む保存会の人たちに教えてもらいながら、おどり、たいこ、笛に分かれてやっています。保存会の会長さんから、小松彼岸獅子の由来について話をしてもらいました。春の彼岸に仏供養のため、村の寺院、新仏の家、ときには若松城下に繰り出して舞を披ろうすることから彼岸獅子と呼ばれていたそうです。明治四年お薬園において松平容保公が功績を称えられ、小松獅子に限って太夫獅子の類掛けと高張提灯に松平家のもんしょう（かもん）である會津三つ葵の使用をゆるされたという歴史を知ることができました。

三年生の初めのころは、全員たいこを練習しました。ゆかがぎずつかないように、タオルをゆかにしいて練習しました。たくさん練習しているとリズムも分かってきて、みんなと合わせてできるようになってきました。

四年生になると、三つに分かれて練習することになりました。自分でやりたい物を選べたので、私は笛にしました。そしたら、本当に笛に入れたのでとてもうれしかったです。じっさいにやってみると、思った以上にむずかしくて、

「だいじょうぶかな。きちんと音を出してできるかな。」

と不安でした。でも、笛の先生や高学年の人たちに教えてもらったら、音がでるようになりました。うれしかったです。他にも、指を使っているいろいろな音がだせるようになりました。

五年生になると、がくふの「切り」ができるようになりました。「袖舞」も少しはできるけど、全部はできません。もっと練習をたくさんして「袖舞」をできるようにしたいです。私の学年に毎日、休み時間になると笛の練習をしている人がいます。その人は、四つの曲がある中でほとんどの曲ができています。私も、その人を見て家で練習をするようになりまし。お姉ちゃんたち二人も笛をやっていたので、リズムが分からなかったりするとこを教えてもらいました。学校で練習をするのもだんだん楽しくなってきました、カレンダーを見ては、

「次の総合の時間は、いつだろう。」

おどり、たいこ、笛に分かれて練習しているので、まだ五年生だけで合わせたことはありません。六年生になると、新潟県の小学校との交流会、ホタル祭り、川まつりなどたくさん場所での多くの人の前で発表しなければなりません。六年生になった時に、しっかりとした発表ができるように一生けん命練習していきたいと思っています。

私は、自分で笛をふくまでは、「小松彼岸獅子」についてそれほどきょう味はありませんでした。でも、保存会の人話を聞いたり、自分が笛をふくというかわりをもつと、この「小松彼岸獅子」が、とても伝統のあるすごいものだということが分かりました。私たちの地域に伝わる文化をしつかりと受けつぎ、次の人たちに伝えていけるようにこれからもがんばっていききたいです。

〈中学生の部〉

最優秀賞

「会津の大切なものを」

会津若松市立北会津中学校 一年 坂場 心愛

会津には、古くからある文化財や昔から続いている伝統がたくさんあります。その文化財や伝統について紹介し、私の考えを伝えたいと思います。

会津の文化財は、さざえ堂や御薬園などたくさんあります。その中でも鶴ヶ城は観光地としても有名です。文化財は古くからあり、いろいろな人の力で今も大切にしています。残されています。

文化財というのは、今までの深い歴史があり、いろいろな人の力や思いが込められて、造られたものだと思います。また、たくさんの人がそれを見てきれいと思うだけではなく、この文化財を続けていきたい、大切にしたいと思えるものだと思います。たくさんの方が会津の文化財を大切にしているのを見て、私も大切にしていけたらいいなと思いました。

会津の伝統も同じです。会津の伝統は工芸品だと、会津漆器や絵ろうそく、民芸品だと起き上がり小法師や赤べこなどがあります。工芸品や民芸品だけではなく、伝統行事もたくさんあります。その伝統行事で有名な会津彼岸獅子のことを紹介したいと思います。

彼岸獅子は、戊辰戦争時から続いている古い歴史のあるものです。今は受け継ぐ人が少なくなっていますが、北会

津町小松地区では保存会の方が子供達に彼岸獅子を教えてくださいます。私も小学校の時に教えていただきました。小松の彼岸獅子は戊辰戦争時に活躍したそうです。私はその話を聞いて、そのような事があったからこそ、今も大切にされていくのかもしれないと思いました。

伝統を続けていくことは、簡単なものではないと思います。でも、子供から大人まで協力し合えば伝統を続けていくことができると思います。私は、今はまだ教わる側ですが、大人になったらいつか教える側になれるといいです。

ここまで会津の文化財と伝統について紹介しました。最後に私の考えをまとめて、伝えたいと思います。

会津の文化財や伝統はたくさんあります。それは今までのたくさんのおかげで今も続いています。続けていくというのは次の人に受け継がれまた受け継がれていくものだと思います。受け継ぐことができなくても、私たち自身が文化財や伝統を守っていくことが続けていくことにもなります。なので、たくさんの方に会津のことを知ってもらい、続けていき、会津の大切なものを守っていかれたらいいなと私は強く思いました。